

民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（P F I法）

（平成11年7月30日法律第117号）

（最終改正：平成13年12月12日法律第151号）

（目的）

第1条 この法律は、民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用した公共施設等の建設、維持管理及び運営（これらに関する企画を含む。）の促進を図るための措置を講ずること等により、効率的かつ効果的に社会資本を整備し、もって国民経済の健全な発展に寄与することを目的とする。

（定義）

第2条 この法律において「公共施設等」とは、次の各号に掲げる施設をいう。

- (1) 道路、鉄道、港湾、空港、河川、公園、水道、下水道、工業用水道等の公共施設
- (2) 庁舎、宿舍等の公用施設
- (3) 公営住宅及び教育文化施設、廃棄物処理施設、医療施設、社会福祉施設、更生保護施設、駐車場、地下街等の公益的施設
- (4) 情報通信施設、熱供給施設、新エネルギー施設、リサイクル施設（廃棄物処理施設を除く。）、観光施設及び研究施設
- (5) 前各号に掲げる施設に準ずる施設として政令で定めるもの

2 この法律において「特定事業」とは、公共施設等の整備等（公共施設等の建設、維持管理若しくは運営又はこれらに関する企画をいい、国民に対するサービスの提供を含む。以下同じ。）に関する事業（市街地再開発事業、土地区画整理事業その他の市街地開発事業を含む。）であって、民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用することにより効率的かつ効果的に実施されるものをいう。

3 この法律において「公共施設等の管理者等」とは、次の各号に掲げる者をいう。

- (1) 公共施設等の管理者である各省各庁の長（衆議院議長、参議院議長、最高裁判所長官、会計検査院長及び大臣をいう。以下同じ。）又は特定事業を所管する大臣
- (2) 公共施設等の管理者である地方公共団体の長又は特定事業を実施しようとする地方公共団体の長
- (3) 公共施設等の整備等を行う特殊法人その他の公共法人（市街地再開発事業、土地区画整理事業その他の市街地開発事業を施行する組合を含む。）

4 この法律において「選定事業」とは、第6条の規定により選定された特定事業をいう。

5 この法律において「選定事業者」とは、第7条第1項の規定により選定事業を実施する者として選定された者をいう。

（基本理念）

第3条 公共施設等の整備等に関する事業は、国及び地方公共団体と民間事業者との適切な役割分担並びに財政資金の効率的使用の観点を踏まえつつ、当該事業により生ずる収益等をもってこれに要する費用を支弁することが可能である等の理由により民間事業者に行わせることが適切なものについては、できる限りその実施を民間事業者にゆだねるものとする。

2 特定事業は、国及び地方公共団体と民間事業者との責任分担の明確化を図りつつ、収益性を確保するとともに、国等の民間事業者に対する関与を必要最小限のものとするにより民間事業者の有する技術及び経

営資源、その創意工夫等が十分に発揮され、低廉かつ良好なサービスが国民に対して提供されることを旨として行われなければならない。

(基本方針)

第4条 内閣総理大臣は、基本理念にのっとり、特定事業の実施に関する基本的な方針(以下「基本方針」という。)を定めなければならない。

2 基本方針は、特定事業の実施について、次に掲げる事項(地方公共団体が実施する特定事業については、特定事業の促進のために必要な事項に係るもの)を定めるものとする。

(1) 民間事業者の発案による特定事業の選定その他特定事業の選定に関する基本的な事項

(2) 民間事業者の募集及び選定に関する基本的な事項

(3) 民間事業者の責任の明確化等事業の適正かつ確実な実施の確保に関する基本的な事項

(4) 法制上及び税制上の措置並びに財政上及び金融上の支援に関する基本的な事項

(5) その他特定事業の実施に関する基本的な事項

3 基本方針は、次に掲げる事項に配慮して定められなければならない。

(1) 特定事業の選定については、公共性を確保しつつ事業に要する費用の縮減等資金の効率的使用を図るとともに、民間事業者の自主性を尊重すること。

(2) 民間事業者の選定については、公開の競争により選定を行う等その過程の透明化を図るとともに、民間事業者の創意工夫を尊重すること。

(3) 財政上の支援については、現行の制度に基づく方策を基本とし、又はこれに準ずるものとする。

4 内閣総理大臣は、基本方針を定めようとするときは、あらかじめ、各省各庁の長に協議するとともに、民間資金等活用事業推進委員会の議を経なければならない。

5 内閣総理大臣は、基本方針を定めたときは、遅滞なく、これを公表するとともに、各省各庁の長に送付しなければならない。

6 前二項の規定は、基本方針の変更について準用する。

(実施方針)

第5条 公共施設等の管理者等は、次条の特定事業の選定及び第7条第1項の民間事業者の選定を行おうとするときは、基本方針にのっとり、特定事業の実施に関する方針(以下「実施方針」という。)を定めるものとする。

2 実施方針は、特定事業について、次に掲げる事項を具体的に定めるものとする。

(1) 特定事業の選定に関する事項

(2) 民間事業者の募集及び選定に関する事項

(3) 民間事業者の責任の明確化等事業の適正かつ確実な実施の確保に関する事項

(4) 公共施設等の立地並びに規模及び配置に関する事項

(5) 第10条第1項に規定する事業計画又は協定の解釈について疑義が生じた場合における措置に関する事項

(6) 事業の継続が困難となった場合における措置に関する事項

(7) 法制上及び税制上の措置並びに財政上及び金融上の支援に関する事項

(8) その他特定事業の実施に関し必要な事項

3 公共施設等の管理者等は、実施方針を定めたときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

4 前項の規定は、実施方針の変更について準用する。

(特定事業の選定)

第6条 公共施設等の管理者等は、基本方針及び実施方針に基づき、実施することが適切であると認める特定事業を選定することができる。

(民間事業者の選定等)

第7条 公共施設等の管理者等は、前条の規定により特定事業を選定したときは、当該特定事業を実施する民間事業者を公募の方法等により選定するものとする。

2 前項の規定により選定された民間事業者は、本来同項の公共施設等の管理者等が行う事業のうち、第10条第1項に規定する事業計画又は協定において当該民間事業者が行うこととされた公共施設等の整備等を行うことができる。

(客観的な評価)

第8条 公共施設等の管理者等は、第6条の特定事業の選定及び前条第一項の民間事業者の選定を行うに当たっては、客観的な評価(当該特定事業の効果及び効率性に関する評価を含む。)を行い、その結果を公表しなければならない。

(地方公共団体の議会の議決)

第9条 地方公共団体は、特定事業に係る契約でその種類及び金額について政令で定める基準に該当するものを締結する場合には、あらかじめ、議会の議決を経なければならない。

(選定事業の実施)

第10条 選定事業は、基本方針及び実施方針に基づき、公共施設等の管理者等及び選定事業者が策定した事業計画若しくは協定又は選定事業者(当該施設の管理者である場合を含む。)が策定した事業計画に従って実施されるものとする。

2 選定事業者が国又は地方公共団体の出資又は拠出に係る法人(当該法人の出資又は拠出に係る法人を含む。)である場合には、当該選定事業者の責任が不明確とならないよう特に留意して、前項の事業計画又は協定において公共施設等の管理者等との責任分担が明記されなければならない。

(国の債務負担)

第11条 国が選定事業について債務を負担する場合には、当該債務を負担する行為により支出すべき年限は、当該会計年度以降30箇年度以内とする。

(行政財産の貸付け)

第11条の2 国は、必要があると認めるときは、国有財産法(昭和23年法律第73号)第18条第1項の規定にかかわらず、選定事業の用に供するため、行政財産(同法第3条第2項に規定する行政財産をいう。次項及び第3項において同じ。)を選定事業者に貸し付けることができる。

2 前項に定めるもののほか、国は、選定事業者が一棟の建物の一部が当該選定事業に係る公共施設等である当該建物の全部又は一部を所有しようとする場合において、必要があると認めるときは、国有財産法第18条第1項の規定にかかわらず、行政財産である土地を、その用途又は目的を妨げない限度において、当該選定事業者に貸し付けることができる。

3 前2項に定めるもののほか、国は、前項の規定により行政財産である土地の貸付けを受けた者が同項に規

定する建物の一部を選定事業の終了後においても引き続き所有しようとする場合において、必要があると認めるときは、国有財産法第18条第1項の規定にかかわらず、当該行政財産である土地を、その用途又は目的を妨げない限度において、その者に貸し付けることができる。

- 4 地方公共団体は、必要があると認めるときは、地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の4第1項の規定にかかわらず、選定事業の用に供するため、行政財産（同法第238条第3項に規定する行政財産をいう。次項及び第6項において同じ。）を選定事業者に貸し付けることができる。
- 5 前項に定めるもののほか、地方公共団体は、選定事業者が一棟の建物の一部が当該選定事業に係る公共施設等である当該建物の全部又は一部を所有しようとする場合において、必要があると認めるときは、地方自治法第238条の4第1項の規定にかかわらず、行政財産である土地を、その用途又は目的を妨げない限度において、当該選定事業者に貸し付けることができる。
- 6 前2項に定めるもののほか、地方公共団体は、前項の規定により行政財産である土地の貸付けを受けた者が同項に規定する建物の一部を選定事業の終了後においても引き続き所有しようとする場合において、必要があると認めるときは、地方自治法第238条の4第1項の規定にかかわらず、当該行政財産である土地を、その用途又は目的を妨げない限度において、その者に貸し付けることができる。
- 7 前各項の規定による貸付けについては、民法（明治29年法律第89号）第604条並びに借地借家法（平成3年法律第90号）第3条及び第4条の規定は、適用しない。
- 8 国有財産法第21条及び第23条から第25条までの規定は第1項から第3項までの規定による貸付けについて、地方自治法第238条の2第2項及び第238条の5第3項から第5項までの規定は第4項から第6項までの規定による貸付けについて、それぞれ準用する。

（国有財産の無償使用等）

第12条 国は、必要があると認めるときは、選定事業の用に供する間、国有財産（国有財産法第2条第1項に規定する国有財産をいう。）を無償又は時価より低い対価で選定事業者を使用させることができる。

- 2 地方公共団体は、必要があると認めるときは、選定事業の用に供する間、公有財産（地方自治法第238条第1項に規定する公有財産をいう。）を無償又は時価より低い対価で選定事業者を使用させることができる。
- （無利子貸付け）

第13条 国は、予算の範囲内において、選定事業者に対し、選定事業のうち特に公共性が高いと認めるものに係る資金について無利子で貸付けを行うことができる。

- 2 国は、前項の規定により無利子で貸付けを行う場合には、日本政策投資銀行、沖縄振興開発金融公庫その他の政府系金融機関等の審査機能又は貸付け機能を活用することができる。

（資金の確保等及び地方債についての配慮）

第14条 国又は地方公共団体は、選定事業の実施のために必要な資金の確保若しくはその融通のあっせん又は法令の範囲内における地方債についての特別の配慮に努めるものとする。

（土地の取得等についての配慮）

第15条 選定事業の用に供する土地等については、選定事業者が円滑に取得し、又は使用することができるよう、土地収用法（昭和26年法律第219号）に基づく収用その他関係法令に基づく許可等の処分について適切な配慮が行われるものとする。

（支援等）

第16条 第11条の2から前条までに規定するもののほか、国及び地方公共団体は、特定事業の実施を促進するため、基本方針及び実施方針に照らして、必要な法制上及び税制上の措置を講ずるとともに、選定事業者に対し、必要な財政上及び金融上の支援を行うものとする。

2 前項の措置及び支援は、整備される施設の特性、事業の実施場所等に応じた柔軟かつ弾力的なものであり、かつ、地方公共団体の主体性が十分に発揮されるよう配慮されたものでなければならない。

(規制緩和)

第17条 国及び地方公共団体は、特定事業の実施を促進するため、民間事業者の技術の活用及び創意工夫の十分な発揮を妨げるような規制の撤廃又は緩和を速やかに推進するものとする。

(協力)

第18条 国、地方公共団体及び民間事業者は、特定事業の円滑な実施が促進されるよう、協力体制を整備すること等により相互に協力しなければならない。

(啓発活動等及び技術的援助等)

第19条 国及び地方公共団体は、特定事業の実施について、知識の普及、情報の提供等を行うとともに、住民の理解、同意及び協力を得るための啓発活動を推進するものとする。

2 国及び地方公共団体は、特定事業の円滑かつ効率的な遂行を図るため、民間事業者に対する技術的な援助について必要な配慮をするとともに、特許等の技術の利用の調整その他民間事業者の有する技術の活用について特別の配慮をするものとする。

(担保不動産の活用等)

第20条 選定事業者が選定事業を実施する際に不動産を取得した場合であって当該不動産が担保に供されていた場合において、当該不動産に担保権を有していた会社、当該不動産を担保として供していた会社又は当該不動産に所有権を有していた会社に損失が生じたときは、当該会社は、当該損失に相当する額を、当該事業年度の決算期において、貸借対照表の資産の部に計上し、繰延資産として整理することができる。この場合には、当該決算期から10年以内に、毎決算期に均等額以上の償却をしなければならない。

2 前項の規定の適用がある場合における商法(明治32年法律第48号)第290条第1項及び第293条の5第3項(これらの規定を他の法律において準用する場合を含む。)の規定の適用については、同法第290条第1項第4号及び第293条の5第3項第3号中「第286条の2及第286条の3」とあるのは、「第286条の3及第286条の3並に民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律第20条第1項」とする。

(民間資金等活用事業推進委員会)

第21条 内閣府に、民間資金等活用事業推進委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会は、この法律の規定によりその権限に属させられた事項を調査審議するほか、実施方針の策定状況、特定事業の選定状況、特定事業の客観的な評価状況その他民間資金等の活用による国の公共施設等の整備等の実施状況を調査審議する。

3 民間事業者等は、委員会に対し、民間資金等の活用による国の公共施設等の整備等に関する意見を提出することができる。

4 委員会は、前2項の場合において必要があると認めるときは、民間資金等の活用による国の公共施設等の整備等の促進及び総合調整を図るため、内閣総理大臣又は関係行政機関の長に意見を述べることができる。

5 内閣総理大臣又は関係行政機関の長は、前項の意見を受けてとった措置について、委員会に報告しなければ

ばならない。

- 6 委員会は、その所掌事務を遂行するため必要があると認めるときは、関係行政機関の長、関係地方公共団体の長又は関係団体に対し、資料の提出、意見の開陳、説明その他必要な協力を求めることができる。

(委員会の組織)

第22条 委員会は、学識経験者のうちから、内閣総理大臣が任命する委員9人で組織する。

- 2 専門の事項を調査審議させる必要があるときは、委員会に専門委員を置くことができる。
- 3 委員会に、必要に応じ、部会を置くことができる。
- 4 前3項に定めるもののほか、委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、政令で定める。

(政令への委任)

第23条 この法律に定めるもののほか、この法律の実施のため必要な事項は、政令で定める。

附 則 抄

(施行期日)

第1条 この法律は、公布の日から起算して3月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(検討)

第2条 政府は、この法律の施行の日から5年以内に、この法律に基づく特定事業の実施状況(民間事業者の技術の活用及び創意工夫の十分な発揮を妨げるような規制の撤廃又は緩和の状況を含む。)について検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする。

第3条 政府は、公共施設等に係る入札制度の改善の検討を踏まえつつ、特定事業を実施する民間事業者の選定の在り方について検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする。

附 則(平成11年法律第160号) 抄

(施行期日)

第1条 この法律(第2条及び第3条を除く。)は、平成13年1月6日から施行する。

附 則(平成13年法律第151号)

(施行期日)

この法律は、公布の日から施行する。

民間資金等の活用による公共施設等の整備等に関する事業の実施に関する基本方針（PFI基本方針）

（平成12年3月13日総理府告示第11号）

21世紀を迎えるに当たり、本格的な少子・高齢社会が到来する中で国民が真に豊かさを実感できる社会を実現するためには、効率的かつ効果的に社会資本を整備し、質の高い公共サービスを提供することが、国、地方公共団体及び特殊法人その他の公共法人の公共施設等の管理者等に課せられた重要な政策課題であるが、この実現のために、民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用し、財政資金の効率的な使用を図りつつ、官民の適切な役割及び責任の分担の下に、公共施設等の整備等（公共施設等の建設、維持管理若しくは運営又はこれらに関する企画をいい、国民に対するサービスの提供を含む。以下同じ。）に関する事業の実施を民間事業者に行わせることが適切なものについてはできる限り民間事業者にゆだねることが求められている。

民間資金等の活用による公共施設等の整備等に関する事業（以下「PFI事業」という。）は、公共性のある事業（公共性原則）を、民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して（民間経営資源活用原則）、民間事業者の自主性と創意工夫を尊重することにより、効率的かつ効果的に実施するものであり（効率性原則）、特定事業の選定及び民間事業者の選定においては公平性が担保され（公平性原則）、特定事業の発案から終結に至る全過程を通じて透明性が確保されねばならない（透明性原則）。さらに、PFI事業の実施に当たっては、各段階での評価決定についての客観性が求められ（客観主義）、公共施設等の管理者等と選定事業者との間の合意について、明文により、当事者の役割及び責任分担等の契約内容を明確にすることが必須であり（契約主義）、事業を担う企業体の法人格上の独立性又は事業部門の区分経理上の独立性が確保されなければならない（独立主義）。公共施設等の管理者等は、公共サービスの提供を目的に事業を行おうとする場合、当該事業を民間事業者に行わせることが財政の効率化、公共サービスの水準の向上等に資すると考えられる事業については、できる限りその実施をPFI事業として民間事業者にゆだねることが望まれる。

このPFI事業の着実な実施は、次のような成果をもたらすものと期待される。

第一は、国民に対して低廉かつ良質な公共サービスが提供されることである。この目的を達成することは、もとより公的部門の重要な課題である。しかし、近年国及び地方公共団体の財政は極めて厳しい状況にあり、着実に財政構造改革を進めていく必要があるところ、民間事業者の経営上のノウハウの蓄積及び技術的能力の向上を背景に、公共施設等の整備等にその経験と能力の活用を図ることが求められている。このような状況の下で、PFI事業による公共サービスの提供が実現すると、それぞれのリスクの適切な分担により、事業全体のリスク管理が効率的に行われること、加えて、建設（設計を含む。）、維持管理及び運営の全部又は一部が一体的に扱われること等により、事業期間全体を通じての事業コストの削減、ひいては全事業期間における財政負担の縮減が期待できる。また同時に、質の高い社会資本の整備及び公共サービスの提供を可能にするものである。このPFI事業を円滑に実施することにより、他の公共施設等の整備等に関する事業においても、民間の創意工夫等が活用されることを通じて、その効果が広範に波及することが期待される。

第二は、公共サービスの提供における行政の関わり方が改革されることである。PFI事業は、民間事業者にゆだねることが適切なものについて、民間事業者の自主性、創意工夫を尊重しつつ、公共施設等の整備等に関する事業をできる限り民間事業者にゆだねて実施するものである。このことによって、財政資金の効率的利用が図られ、また、官民の適切な役割分担に基づく新たな官民パートナーシップが形成されていくものと期待される。

第三は、民間の事業機会を創出することを通じて経済の活性化に資することである。PFI事業は、従来主として国、地方公共団体等の公的部門が行ってきた公共施設等の整備等の事業を民間事業者にゆだねることから、民間に対して新たな事業機会をもたらす効果があることに加えて、他の収益事業と組み合わせて実施することによっても、新たな事業機会を生み出すことになる。

また、PFI事業のための資金調達方法として、プロジェクト・ファイナンス等新たな手法を取り入れることにより、金融環境が整備されるとともに、新しいファイナンス・マーケットの創設につながることが予想される。これらの結果、新規産業を創出し、経済構造改革を推進する効果が期待される。

以上のような認識の下に、民間事業者の自主性と創意工夫を尊重したPFI事業の促進を図ることは、喫緊の政策課題といえる。国及び地方公共団体においては、公共施設等の管理者等が特定事業の実施を円滑に進められるように、以下に示すところにより、所要の財政上及び金融上の支援、関連する既存法令との整合性の明確化、規制の緩和等の措置を講ずる必要がある。

本基本方針は、公共施設等の管理者等が、共通の方針に基づいてPFI事業を実施することを通じて、効率的かつ効果的な社会資本の整備が促進されることを期し、民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（平成11年法律第117号。以下「法」という。）第4条第1項の規定に基づき、特定事業の実施に関する基本的な方針として定めるものである。なお、本基本方針は、国等（法第2条第3項第1号及び第3号に掲げる者をいう。以下同じ。）が公共施設等の管理者等として行うPFI事業について主として定めるものであり、同時に、地方公共団体においても、法の趣旨にのっとり、本基本方針の定めるところを参考として、PFI事業の円滑な実施の促進に努めるものとする。

#### 一 民間事業者の発案による特定事業の選定その他特定事業の選定に関する基本的な事項

##### 1 特定事業に係る一般的事項

国等は、公共施設等の整備等に関する事業を行う場合、民間の持つ資金、経営能力及び技術的能力を活用することにより効率的かつ効果的に実施されることが可能な事業であって、民間事業者に行わせることが適切なものについては、できる限りその実施を民間事業者にゆだねるものとする。

##### 2 実施方針の策定及び公表

(1) 国等は、PFI事業の円滑な実施を促進していくためには、具体的な特定事業を早期に実現し、その実施過程の中で諸制度の整備、改善を図っていくことが必要であるとの観点に立ち、公共施設等の整備等に関する事業のうち、事業の分野、形態、規模等にかんがみ、PFI事業としての適合性が高く、かつ、国民のニーズに照らし、早期に着手すべきものと判断される事業から、法第5条に定める実施方針を策定する等の手続に着手することとする。また、民間事業者からの発案のあった事業については、下記4に従い、積極的にこれを取り上げて、必要な措置を講ずるものとする。

(2) 国等は、実施方針の策定及び公表を、公平性及び透明性の確保の観点から、当該事業に関する情報が早くかつ広く周知されるよう、なるべく早い段階で行うこととする。

(3) 国等は、実施方針において、法第5条第2項各号に掲げる事項を定めるものとする。

実施方針の策定に当たっては、民間事業者にとって特定事業への参入のための検討が容易になるよう、当該特定事業の事業内容、民間事業者の選定方法等についてなるべく具体的に記載するものとする。この際、実施方針は、公表当初において相当程度の具体的内容を備えた上で、当該特定事業の事業内容の検討

の進行に従い、順次詳細化して補完することとしても差し支えない。

### 3 特定事業の選定及び公表

国等は、実施方針の策定後、当該事業の実施可能性等を勘案した上で、これを特定事業として実施することが適切であると判断したときは、法第6条に基づく特定事業として選定することとする。法第6条に基づく特定事業の選定及び法第8条に基づく客観的な評価の結果の公表については、次の点に留意して行うものとする。なお、下記(2)及び(3)の算定及び評価については、漸次その客観性及び透明性の向上を図るよう努めていく必要がある。

- (1) 特定事業の選定に当たっては、P F I事業として実施することにより、公共施設等の建設、維持管理及び運営が効率的かつ効果的に実施できることを基準とすること。これを具体的に評価するに当たっては、民間事業者にゆだねることにより、公共サービスが同一の水準にある場合において事業期間全体を通じた公的財政負担の縮減を期待することができること又は公的財政負担が同一の水準にある場合においても公共サービスの水準の向上を期待することができること等を選定の基準とすること。
- (2) 公的財政負担の見込額の算定に当たっては、財政上の支援に係る支出、民間事業者からの税収その他の収入等が現実に見込まれる場合においてこれらを調整する等適切な調整を行って、将来の費用（費用の変動に係るリスクをできる限り合理的な方法で勘案したものとする。）と見込まれる公的財政負担の総額を算出の上、これを現在価値に換算することにより評価すること。
- (3) 公共サービスの水準の評価は、できる限り定量的に行うことが望ましいが、公共サービスの水準のうち定量化が困難なものを評価する場合においては、客観性を確保した上で定性的な評価を行うこと。
- (4) 特定事業の選定を行ったときは、その判断の結果を、評価の内容（公共サービスの水準について定性的な評価を行った場合は、その評価の方法と結果を含む。以下同じ。）と併せ、民間事業者の選定その他公共施設等の整備等への影響に配慮しつつ、速やかに公表すること。なお、実施方針の策定及び公表後に、事業の実施可能性等についての客観的な評価の結果等に基づき特定事業の選定を行わないこととしたときも同様とすること。
- (5) 上記(4)の公表のほか、選定又は不選定に係る評価の結果に関する詳細な資料については、民間事業者の選定その他公共施設等の整備等の実施への影響に配慮しつつ、適切な時期に適宜公表すること。

### 4 民間事業者の発案に対する措置

国等は、P F I事業の促進にとって有益な民間事業者からの活発な発案を促すため、民間事業者からの発案に関し、次の点に留意して対応するものとする。

- (1) 公共施設等の管理者等は、民間事業者の発案に係る受付、評価、通知、公表等を行う体制を整える等、適切な対応をとるために必要な措置を積極的に講ずること。
- (2) 民間事業者からの発案に対してこれを実施に移すことが適当であると認めるときは、実施方針の策定等について、公共施設等の管理者等が発案したP F I事業の場合と同じ手続を行うこととすること。
- (3) 民間事業者の発案による事業案について相当の期間内に実施方針の策定までに至らなかった場合には、その判断の結果及び理由を発案者に速やかに通知すること。さらに、これらの事業案の概要、公共施設等の管理者等の判断の結果及び理由の概要につき、当該事業者の権利その他正当な利益及び公共施設等の整備等の実施に対する影響に留意の上、適切な時期に適宜公表すること。

## 二 民間事業者の募集及び選定に関する基本的な事項

- 1 国（法第2条第3項第1号に掲げる者をいう。以下同じ。）は、法第7条第1項に基づく民間事業者の選定及び法第8条に基づく客観的な評価の結果の公表については次の点に留意して行うものとする。
  - (1) 民間事業者の募集及び選定に関しては、「公平性原則」にのっとり競争性を担保しつつ、「透明性原則」に基づき手続の透明性を確保した上で実施するよう留意すること。加えて、できる限り民間事業者の創意工夫が発揮されるように留意するとともに、所要の提案準備期間の確保にも配慮すること。
  - (2) 会計法令の適用を受ける契約に基づいて行われる事業を実施する民間事業者の選定に際しては、会計法令に基づき、一般競争入札によることを原則とすること。
  - (3) 競争入札に際し、会計法令の規定に従い価格及びその他の条件により選定を行うこととする場合には、客観的な評価基準を設定すること。公共サービスの水準等について、やむを得ず定性的な評価基準を用いる場合でも、評価結果の数量化により客観性を確保すること。
  - (4) 会計法令の規定の適用を受けない場合においても、競争性を担保すること。また、この場合又は随意契約による場合においても、上記(3)の趣旨にのっとり客観的な評価を行うことを条件とすること。
  - (5) 募集に当たっては、民間事業者の創意工夫が極力発揮されるように、会計法令に定めるところの範囲内において、提供されるべき公共サービスの水準を必要な限度で示すことを基本とし、構造物、建築物等の具体的な仕様の特定については必要最小限にとどめること。
  - (6) 民間事業者には質問の機会を与えると同時に、質問に係る情報提供に当たっては、競争条件を損なわないよう、公正に行うこと。
  - (7) 民間事業者の選定を行ったときは、その結果を評価の結果、評価基準及び選定の方法に応じた選定過程の透明性を確保するために必要な資料（公表することにより、民間事業者の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれのあるものを除く。）と併せて速やかに公表すること。
  - (8) 民間事業者の募集及び選定に係る過程を経た結果、民間事業者を選定せず、特定事業の選定を取り消すこととした場合においては、上記 - 3 (4)及び(5)に準じ、公表すること。
- 2 特殊法人その他の公共法人（法第2条第3項第3号に掲げる者をいう。）は、民間事業者の選定等について、上記1(1)から(8)までの規定に準じて、公正かつ適正に実施するものとする。
- 3 国は、上記1(3)及び(4)に記載された客観的な評価基準、定性的な客観性の確保等に関しては、PFI事業に係る評価手法と評価手続の特性を考慮して、漸次、その手法及び手続と規範の在り方を実務的に定め、透明性の向上を図るよう努めなければならない。

## 三 民間事業者の責任の明確化等事業の適正かつ確実な実施の確保に関する基本的な事項

国等は、選定事業の適正かつ確実な実施の確保を図るため、国等及び民間事業者の責任の明確化等について次の点に留意して措置するものとする。

- 1 公共施設等の管理者等は、実施方針において、選定事業における公共施設等の管理者等の関与、リスク及びその分担をできる限り具体的に明らかにすること。
- 2 事業計画又は協定等（以下「協定等」という。）において、以下の諸点に留意して規定し、協定等は公開すること（ただし、公開することにより、民間事業者の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそ

れのある事項については、あらかじめ協定等で合意の上、これを除く。 )。

- (1) 協定等は、選定事業に係る責任とリスクの分担その他協定等の当事者の権利義務を取り決めるものであり、できる限りあいまいさを避け、具体的かつ明確に取り決めること。
- (2) 公共施設等の管理者等は、協定等において、選定事業者により提供されるサービスの内容と質、サービス水準の測定と評価方法、料金及び算定方法等、協定等の当事者双方の負う債務の詳細並びにその履行方法に加えて、当事者が協定等の規定に違反した場合に、選定事業の修復に必要な適切かつ合理的な措置、債務不履行の治癒及び当事者の救済措置等を規定すること。
- (3) 公共施設等の管理者等は、民間事業者に対する関与を必要最小限のものにすることに配慮しつつ、適正な公共サービスの提供を担保するため、以下の事項等を考慮し、協定等でこれらについて合意しておくこと。
  - (イ) 公共施設等の管理者等が、選定事業者により提供される公共サービスの水準 を監視することができること。
  - (ロ) 公共施設等の管理者等が、選定事業者から、定期的に協定等の義務履行に係る事業の実施状況報告の提出を求めることができること。
  - (ハ) 公共施設等の管理者等が、選定事業者から、公認会計士等による監査を経た財務の状況についての報告書(選定事業の実施に影響する可能性のある範囲内に限る。)の提出を定期的に求めることができること。
  - (ニ) 選定事業の実施に重大な悪影響を与えるおそれがある事態が発生したときには、公共施設等の管理者等は選定事業者に対し報告を求めることができるとともに、第三者である専門家による調査の実施とその調査報告書の提出を求めることができること。
  - (ホ) 公共サービスの適正かつ確実な提供を確保するために、必要かつ合理的な措置と、公共施設等の管理者等の救済のための手段を規定すること。
  - (ヘ) 公共施設等の管理者等による選定事業に対する、上記(イ)から(ホ)までに基づく協等の規定の範囲を超えた関与は、安全性の確保、環境の保全に対する検査・モニタリング等、選定事業の適正かつ確実な実施の確保に必要とされる合理的な範囲に限定すること
- (4) 選定事業のリスク分担について、想定されるリスクをできる限り明確化した上で、リスクを最もよく管理することができる者が当該リスクを分担するとの考え方に基づいて取り決めること。また、経済的に合理的な手段で軽減又は除去できるリスクについては、適切な措置を講ずるものとし、協定等において、その範囲及び内容を、できる限り具体的かつ明確に規定すること。
- (5) 選定事業の終了時期を明確にするとともに、事業終了時における土地等の明渡し等、当該事業に係る資産の取扱いについては、経済的合理性を勘案の上、できる限り具体的かつ明確に規定すること。
- (6) 事業継続が困難となる事由を、できる限り具体的に列挙し、当該事由が発生した場合又は発生するおそれが強いと認められる場合における協定等の当事者のとるべき措置を、その責めに帰すべき事由の有無に応じて、具体的かつ明確に規定すること。事業修復の可能性があり、事業を継続することが合理的である場合における事業修復に必要な措置を、その責めに帰すべき事由の有無に応じて、具体的かつ明確に規定すること。事業破綻時における公共サービスの提供の確保については、上記(5)に規定する当該事業に係

る資産の取扱いを含め、当該事業の態様に応じて、的確な措置を講ずることを規定すること。

(7) 協定等の解除条件となる事由に関し、その要件及び当該事由が発生したときに協定等の当事者のとるべき措置について、上記(5)及び(6)に留意の上、具体的かつ明確に規定すること。

(8) 上記(4)から(7)までに規定する協定等の当事者の対応が、選定事業における資金調達の種類、期間、コストその他の条件に大きな影響を与えることに留意し、適切かつ明確な内容とすることに留意すること。また、当該選定事業が破綻した場合、公共施設等の管理者等と融資金融機関等との間で、事業及び資産の処理に関し直接交渉することが適切であると判断されるときは、融資金融機関等の債権保全等その権利の保護に配慮しつつ、あらかじめ、当該選定事業の態様に応じて適切な取決めを行うこと。

(9) 選定事業者の責任により組成される金融の仕組みによって、選定事業者の破綻に伴い、金融機関等第三者が選定事業の継承を要求し得る場合には、公共性、公平性の観点に基づき、継続的な公共サービスの提供を確保するために合理的である限りにおいて、あらかじめ、協定等において適切な取決めを行うこと。

(10) 協定等若しくはその規定の解釈について疑義が生じた場合又は協定等に規定のない事項に関し係争が生じた場合に、これらを解消するための手続その他の措置については、当該選定事業の態様に応じ、あらかじめ、具体的かつ明確に規定すること。

3 選定事業者が、国又は地方公共団体の出資又は拠出に係る法人（当該法人の出資又は拠出に係る法人を含む。）である場合、公共施設等の管理者等は、具体的かつ明確な責任分担の内容を、選定事業者その他の利害関係者に対し明らかにし、透明性を保持するよう特段の配慮をすること。

4 選定事業者が、当該選定事業以外の他の事業等に従事する場合に、かかる他の事業等に伴うリスクにより当該選定事業に係る公共サービスの提供に影響を及ぼすおそれがあるときは、この影響を避けるため又は最小限にするため、協定等に必要な規定を設ける等、適切な措置を講ずること。また、選定事業者が、選定事業を実施するために新たに設立された法人である場合に、選定事業の実施に係る懸念を解消するため適当なときは、公共施設等の管理者等と選定事業者の出資者との間で、選定事業の適正かつ確実な実施を担保するために必要な措置を、経済合理性を勘案の上、別途合意しておくこと。

#### 四 法制上及び税制上の措置並びに財政上及び金融上の支援に関する基本的な事項

1 政府は、特定事業の実施に係る法制上及び税制上の措置並びに財政上及び金融上の支援に関して、P F I事業の円滑な推進を図るため、次の基本的な考え方に立ち、適切な措置を講じていくものとする。

(1) 財政上の支援については、本来公共施設等の管理者等が受けることのできる支援の範囲内で、民間の選定事業者が受けられるように配慮すること。

(2) 税制上の措置については、現行の制度に基づくものを基本としつつ、P F I事業の推進のために必要な措置を検討すること。

(3) 政府系金融機関等による金融上の支援における選定事業の位置付けを整備し、選定事業者に対する政府系金融機関等の融資が、円滑に実施されるように配慮すること。

(4) 法第17条の規定の趣旨に十分配慮して、業法及び公物管理法等について、P F I事業推進のために必要な規制の撤廃又は緩和を速やかに推進すること。なお、選定事業者の法的地位の明確化が必要であるとの観点に立ち、同事業の円滑な推進に支障が生じないよう、法令の解釈、適用等を含め、法制上の位置付け

を整備すること。また、民間事業者の選定に関する手続については、法附則第3条の規定を踏まえ、整備を図ること。

(5) 国有財産を無償又は時価より低い対価で選定事業の用に供することについては、法第12条第1項の規定の趣旨を踏まえ、早急にその具体的な取扱いを定めること。

(6) 直接金融、間接金融を問わず、民間資金を多様な手段によって効率的、効果的に活用できることが、PFI事業の円滑な実施に資することにかんがみ、選定事業に係る協定等の締結に当たり、選定事業者による多様な手段を通じた民間資金の円滑な調達が可能となるように配慮し、このために必要な環境の整備を図ること。

(7) 選定事業における金融の仕組みがプロジェクト・ファイナンスである等、当該選定事業より生ずる収入と、当該選定事業に係る有形資産又は無形資産の担保化に専ら依拠する場合において、協定等の当事者がかかる手法の態様を考慮し合理的かつ適切な協定等を取り決めることができるように、担保に関する制度等に関し、必要な環境の整備を図ること。

(8) PFI事業のために取得される不動産に担保が設定されている場合、法第20条第1項に基づき、当該不動産の担保権者、担保提供者又は所有権者に生ずる損失は、繰延資産として整理した上で、10年以内の償却が認められることに留意し、担保不動産の活用について周知を図ること。

2 国等は、民間事業者の特定事業への参入のための検討が容易となるよう、実施方針の中で、次の点について具体的な内容をできる限り明らかにするものとする。

(1) 選定事業の実施に当たって必要な許認可等及び選定事業者が行い得る公共施設等の維持管理又は運営の範囲

(2) 適用可能な選定事業者への補助金、制度融資等

(3) 適用可能な税制上の優遇措置

(4) 選定事業の用に供する国有財産を無償又は時価より低い対価で選定事業者に使用させることに関する事項

## 五 民間資金等活用事業推進委員会に関する基本的な事項

民間資金等活用事業推進委員会（以下「推進委員会」という。）は、法第21条の規定に基づき、政府と協力して、PFI事業の実施を促進するために、以下の役割等を担う。

1 民間資金等の活用による国の公共施設等の整備等（以下五において「国の公共施設等の整備等」という。）については、推進委員会がその実施状況や民間事業者等からの意見について所要の調査審議を行い、PFI事業の実施の促進のために必要があると認める場合、内閣総理大臣又は関係行政機関の長に意見を述べ、国の公共施設等の整備等の促進及び総合調整を図る。

2 推進委員会は、政府とともに、内外のPFIに関する情報、選定事業の実施状況、PFI事業に関連する法制度、税制等に関する情報等、PFI事業の円滑な推進に寄与する情報を収集し、国民のPFI事業に対する理解やPFI事業に関わる関係者の便宜のためにこれらの情報を広く一般に供する。

3 推進委員会は、上記1のとおり内閣総理大臣等に対し意見を述べるほか、国がPFI事業を実施するに当たり、その円滑な推進のために要請したときには、国の公共施設等の整備等の総合調整を図る観点から当該

機関に対し適切な助言を行う。

- 4 国の公共施設等の整備等に関する民間事業者等からの意見、提言又は苦情については、推進委員会が受け付け、PFI事業の実施の促進のために必要があると認める場合、国の公共施設等の整備等の促進及び総合調整を図るため、内閣総理大臣又は関係行政機関の長に意見を述べる。
- 5 推進委員会は、推進委員会の活動について国民の理解を深めるよう広報に努めるとともに、広く国民のPFI事業についての理解を深め、PFI事業の円滑な実施を図るため、政府の行う広報に協力する。
- 6 推進委員会は、上記各項目に係る調査審議に資するため、収集されたPFI事業に関する情報について分析し、PFI事業の実施促進に必要な調査を行うことその他以上の活動に伴い必要なPFI事業の実施を促進する上で必要な業務を遂行する。

## 六 地方公共団体における特定事業の実施に関する基本的な事項

地方公共団体においては、前項までの事項を参考として、次の事項に留意の上、特定事業の円滑な実施に努めるものとする。

### 1 支援

(1) 必要があると認めるときは、選定事業の用に供する間、公有財産を無償又は時価より低い対価で選定事業者を使用させることができること。

(2) 選定事業の実施を支援するために必要な資金の確保又はそのあっせんに努めること。

(3) 実施方針に照らして、選定事業者に対し、必要な財政上及び金融上の支援を行うこと。

なお、選定事業者に対する支援は、整備される施設の特性、事業の実施場所等に応じた柔軟かつ弾力的なものであること。

### 2 規制緩和

民間事業者の技術の活用及び創意工夫の十分な発揮を妨げるような地方公共団体独自の規制については、その撤廃又は緩和を速やかに推進すること。

### 3 PFI事業の推進

(1) 特定事業の選定、民間事業者の評価、選定に当たっては、公平性、透明性の確保を図ること。

(2) 特定事業の実施に際し必要となる諸手続については、円滑に事務処理を行い、その促進を図ること。

(3) 民間事業者の発案に係る受付、評価、通知、公表等を行う体制を整える等、適切な対応を図ること。

(4) PFI事業に関する情報の収集を行うとともに、特定事業の実施に関して、住民に対する知識の普及、情報の提供等を行い、住民の理解、同意及び協力を得るための啓発活動を推進すること。

(5) 民間事業者に対する技術的な援助について必要な配慮を加えるとともに、特許等の技術の利用の調整その他民間事業者の有する技術の活用について、特段の配慮を行うこと。

(6) 協定等に基づき債務負担行為を行う場合は、長期的な財政負担の在り方に十分配慮しながら、財政の健全性と柔軟性を保持し、中長期的な観点からの財政負担の縮減を図ること。

(7) 民間事業者の選定に当たっては、競争性を担保しつつ、総合評価方式、性能発注方式の活用など、PFI事業の態様に適した方法を採用するよう努めること。

## 七 その他特定事業の実施に関する基本的な事項

- 1 政府は、推進委員会の協力の下、内外の P F I に関する情報、選定事業の実施状況、P F I 事業に関連する法制度、税制等に関する情報等、P F I 事業の円滑な推進に寄与する情報を収集し、国民の P F I 事業に対する理解や P F I 事業に関わる関係者の便宜のため、これを広く一般に供する。
- 2 政府は、広く国民の P F I 事業の理解を深め、P F I 事業の円滑な実施を図るため広報を行う。

地方公共団体における P F I 事業について

自治画第67号

平成12年 3月29日

(平成14年 4月 1日改正)

各都道府県知事 殿

各指定都市市長

自治事務次官

地方公共団体における P F I 事業について

今般、民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律(平成11年法律第117号。以下「P F I 法」という。)第4条第1項に定める基本方針が制定されました。地方公共団体においては、下記事項に留意のうえ、適切に対応されるようお願いいたします。

なお、貴都道府県内市区町村にもこの旨周知されるようお願いいたします。

記

第1 総括的事項

1 P F I 法は、平成11年9月24日に施行され、同法第4条第1項に基づき、内閣総理大臣が、平成12年3月13日、別添のとおり基本方針を定めたところであること。

基本方針は、国(特殊法人その他の公共法人を含む。)が公共施設等の管理者等として行う P F I 事業について主として定めたものであり、地方公共団体については、本基本方針の定めるところを参考として、P F I 事業の円滑な実施の促進に努めるものとされていること。

2 以下、本通知において、次の用語は、それぞれ下記のとおりとする。

(1) P F I 事業地方公共団体が P F I 法第5条第1項の実施方針を定めて実施する P F I 法第2条第4項に定める「選定事業」をいう。

(2) P F I 事業者 P F I 法第7条第1項の規定により P F I 事業を実施する者として選定された者をいう。

(3) P F I 契約地方公共団体と P F I 事業者の間で締結される、P F I 事業に係る契約をいう(P F I 法第9条に定める議会の議決が必要な契約にあつては、これを経たのものに限る。)

(4) 政府調達協定 1994年4月15日マラケシュで作成された政府調達に関する協定をいう。

(5) 特例政令地方公共団体の物品等又は特定役務の調達手続の特例を定める政令(平成7年政令第372号)をいう。

3 P F I 法第9条及び民間資金等の活用による公共施設等の整備の促進に関する法律施行令に定めるとおり、以下の P F I 契約については、あらかじめ議会の議決を経なければならないこと。これは、地方自治法第96条第1項第5号に定める議会の議決との均衡を考慮するとともに、P F I 事業に係る将来の財政負担等を議会においてチェックする趣旨であること。また、この場合における金額は、P F I 契約の予定価格の金額のうち維持管理、運営等に要する金額を除いた金額により判断するものであること。

	千円
法第二条第五項に規定する選定事業者が建設する同条第一項に規定する公共施設等（地方公共団体の経営する企業で地方公営企業法（昭和二十七年法律第二百九十二号）第四十条第一項の規定の適用があるものの業務に関するものを除く。）の買入れ又は借入れ	都道府県 500、000
	地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第二百五十二条の十九第一項に規定する指定都市（以下この表において「指定都市」という。） 300、000
	市（指定都市を除く。） 150、000
	町村 50、000

4 PFI法が、いわゆる第三セクターの抱える諸課題等を考慮のうえ立法された経緯も踏まえ、PFI契約において、PFI事業者とのリスクの分担（PFI事業の継続が困難になった場合の措置を含む。以下同じ。）を明確にしておくとともに、PFI事業者に対する安易な出資及び損失補償は、厳に慎むこと。

5 総務省は自治行政局地域振興課を窓口として相談に応じることとしているので、PFI事業の実施を検討している地方公共団体は積極的に相談すること。また、平成14年度より自治体PFI推進センターが設置されているので、地方公共団体間の意見交換及び情報の共有の場として活用を図ること。さらに、（財）地域総合整備財団において、PFIアドバイザーの派遣、PFI研修会、民間事業者との意見交換会を実施し、また相談窓口を設置しているので適宜活用を図ること。さらに、平成14年度には自治体PFI推進センターが設置されるので、あわせて活用を図ること。

なお、PFI事業に対する貸付であって現行のふるさと融資の要件を満たすものについては、これを対象とするものであること。詳細は（財）地域総合整備財団に照会すること。

6 PFI事業の実施に当たっては、実施方針、選定結果、契約、協定、金融機関との直接の取決め（ダイレクト・アグリーメント）及び監視等の結果についてもすべて公開し、PFI事業選定の手続の透明性の確保を図ること。

## 第2 PFI事業に係る債務負担行為の位置付け

PFI法に基づいて公共施設等の整備を行うために設定される債務負担行為は、効率的かつ効果的な公共施設等の整備のために設定されるものであり、「もっぱら財源調達的手段として設定する債務負担行為」（「債務負担行為の運用について」（昭和47年9月30日付け自治導第139号））に該当するものではないと解されること。しかしながら、この場合においても財政の健全性を確保する必要があるので、PFI事業における債務負担行為に係る支出のうち、施設整備費や用地取得費に相当するもの等公債費に準ずるものを起債制限比率の計算の対象とするものであること。

## 第3 PFI事業に係る地方財政措置

PFI事業のうち1の要件を満たすものに係る施設整備費について、地方公共団体がPFI事業者に対して財政的支出を行う場合、2の財政措置を講じること。なお、具体的内容については「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（平成11年法律第117号）に基づいて地方公共団体が実施する事

業に係る地方財政措置について」(平成12年3月29日付け自治省財政局長通知)を参照すること。

#### 1 要件

ア 当該施設の所有権が一定期間経過後に地方公共団体に移転(当該施設の整備後直ちに移転する場合を含む。)するもの又はPFI契約が当該施設の耐用年数と同程度の期間継続するものであること。

イ 通常当該施設を地方公共団体が整備した場合に国庫補助負担制度がある事業については、PFI事業で整備する場合にも同等の措置が講じられるものであること。

#### 2 財政措置の内容

##### ア 国庫補助負担金が支出される事業

当該国庫補助負担金の内容に応じて、地方公共団体が直接整備する場合と同等の地方債措置又は地方交付税措置を講じること。

##### イ 地方単独事業として実施されるPFI事業

地方公共団体が直接整備する場合に施設の種別に応じた財政措置の仕組みがある施設については当該措置内容に準じて、そのような財政措置の仕組みがない施設(公共性が高く、かつ非収益的な施設で一定の要件を満たすものに限る。)については一定の範囲で、地方交付税措置を講じること。

#### 第4 税制上の措置

(1) PFI事業者がPFI事業の用に供する土地については、特別土地保有税の非課税措置が講じられていること。(地方税法第586条第2項第1号の27)

(2) PFI事業者が港湾法に規定する無利子貸付けを受けてPFI事業として整備する特定用途港湾施設のうち一定のもの又はPFI事業者が政府の補助金を受けてPFI事業として整備する廃棄物の処理及び清掃に関する法律に規定する一般廃棄物処理施設のうち一定のものについて、不動産取得税又は固定資産税若しくは都市計画税の課税標準の特例措置が講じられていること。(地方税法附則第11条第30項及び第31項並びに同法附則第15条第48項及び49項)

#### 第5 契約関係

1 PFI契約の相手方の決定の手続については、基本方針「二民間事業者の募集及び選定に関する基本的な事項」を参考として、適切に実施すること。

#### 2 契約の相手方の選定方法の原則(一般競争入札)

##### 総合評価一般競争入札の活用等

PFI事業者の選定方法は、公募の方法等によることとされており(PFI法第7条第1項)、一般競争入札によることが原則とされていること。

この場合において、PFI契約においては、価格のみならず、維持管理又は運営の水準、PFI事業者とのリスク分担のあり方、技術的能力、企画に関する能力等を総合的に勘案する必要があることにかんがみ、総合評価一般競争入札(地方自治法施行令第167条の10の2)の活用を図ること。

この際、あらかじめ学識経験者の意見を聴き、落札者決定基準を適切に定め、公表すること等、所定の手続について十分留意すること。(「地方自治法施行令の一部を改正する政令の施行について」(平成11年2月17日付け自治行第3号自治事務次官通知)を参照のこと。)

### 3 随意契約による場合の留意点

上記1によらず、随意契約の方法によるためには、地方自治法施行令第167条の2第1項各号に該当することを要すること。この場合において、以下の点に留意すること。

- (1) 地方自治法第167条の2第1項第2号「その性質又は目的が競争入札に適しないものをするとき」については、普通地方公共団体において当該契約の目的、内容に照らしそれに相応する資力、信用、技術、経験等を有する相手方を選定しその者との間で契約の締結をするという方法をとるのが当該契約の性質に照らし又はその目的を究極的に達成する上でより妥当であり、ひいては当該普通地方公共団体の利益の増進につながると合理的に判断される場合もこれに当たると解されているところであり（別紙昭和62年3月20日最高裁第2小法廷判決参照）、PFI契約についてもこれを踏まえて適切に判断するものであること。
- (2) 同条第5号「時価に比して著しく有利な価格で契約を締結することができる見込みのあるとき」とは、相手方が多量のストックをかかえ売り込む意欲が強い場合等、相手方が特殊な地位に立っている場合が該当するものとされていること。この場合において、同号の「著しく有利な価格」とは、一般的には、品質、性能等が他の物件と比較して問題がなく、かつ、予定価格（時価を基準としたもの）から勘案しても、競争入札に付した場合より誰が見てもはるかに有利な価格で契約できるときと解されており、したがって、当該地方公共団体が当該公共施設等を整備すると仮定する場合の価格と当該相手方の価格を比較するとともに、一般的なPFI事業者がPFI方式で整備すると仮定した場合の標準的な価格と比較し、著しく有利であるか否かにより判断するものであること。

### 4 政府調達協定の適用を受けるPFI契約についての留意点

- (1) PFI契約は、公共施設等の建設のみならず、維持管理及び運営をも内容とするものであり、このため、政府調達協定対象の役務と対象外の役務の双方を包含する混合的な契約となりうるものであること。  
こうした混合的な契約においては、主目的である調達に着目し、全体を当該主目的に係る調達として扱うこととされており、主目的が物品等又は協定の対象である役務の調達契約であって、当該契約の全体の予定価格（主目的以外の物品等及び役務に係る価額を含む。）が適用基準額を超える場合に、特例政令の適用を受けることとされているので、都道府県及び指定都市においては留意すること。（「地方公共団体の物品等又は特定役務の調達手続の特例を定める政令の公布について」平成7年11月1日付け自治行第84号行政課長通知参照）。
- (2) 特例政令第10条本文において引用する地方自治法施行令第167条の2第1項第3号の「緊急の必要」とは、例えば、災害時において一般競争入札又は指名競争入札の方法による手続をとるときは、その時期を失し、あるいは全く契約の目的を達することができなくなり、経済上はなはだしく不利益を被るに至るような場合を想定していること。
- (3) 特例政令第10条第1項第6号は、設計契約について随意契約によることができるとしているものであり、建設、維持管理、運営等、設計以外の内容を一体的に含むPFI契約は、その対象ではないものと解されること。

### 5 その他

- (1) PFI契約の相手方の決定の手続に際しては、特別目的会社に対する出資予定者等により構成される、法人格の無い共同企業体の形式で参加し、PFIの選定事業者となった後に、初めて法人格を持った特定目

的会社を設立して、地方公共団体との間でPFI契約を締結することも差し支えないこと。

(2) 民間事業者による発案が可能とされている(PFI法第4条第2項第1号)が、提案を行った民間事業者を相手方として、随意契約によるPFI契約を締結するためには、地方自治法施行令第167条の2第1項各号(政府調達協定の適用を受ける場合においては、特例政令第10条第1項各号)に該当する必要があること。

(3) PFI契約の相手方となる民間事業者の選定手続に参加した民間事業者に対し、一定のコンペ料等を支払うことを妨げるものでないこと。

## 第6 公の施設関係

1 PFI法に基づいて公共施設等を整備しようとする場合の当該公共施設等の管理については、公の施設制度の趣旨を踏まえ、公の施設として管理すべきか否か適切に判断するものであること。

2 PFI事業により公の施設を整備しようとする場合にあっては、施設の設置及びその管理に関する事項等については条例でこれを定めるものであること。

3 PFI事業により公の施設を整備しようとする場合であって、当該施設を公の施設として供用する間、PFI事業者が施設の所有権を有する場合は、地方公共団体は、公の施設を設置するに伴って住民に対して負う責務を全うするに十分な、安定的な使用権原(賃借権等)を取得しておく必要があること。

4 PFI事業により公の施設を整備しようとする場合であって、当該施設の管理を包括的民間事業者に行わせる場合は、原則として地方自治法第244条の2第3項に規定する公の施設の指定管理者の制度を採用すること。

ただし、民間事業者に対して、包括的委任でなく、例えば下記の諸業務をPFI事業として行わせることは可能であり、また一の民間事業者に対してこれらの業務のうち複数のものをPFI事業として行わせることも可能であること。その場合にあっては、当該民間事業者については、当該公の施設の利用に係る料金を当該民間事業者の収入として収受させること及び当該料金を当該民間事業者が定めることとするはできないこと。(地方自治法第244条の2第8項,第9項)

下記のような事実上の業務

- ・施設の維持補修等のメンテナンス
- ・警備
- ・施設の清掃
- ・展示物の維持補修
- ・エレベーターの運転
- ・植栽の管理

管理責任や処分権限を地方公共団体に留保した上で、管理や処分の方法についてあらかじめ地方公共団体が設定した基準に従って行われる下記のような定型的行為・入場券の検認

- ・利用申込書の受理
- ・利用許可書の交付

私人の公金取扱いの規定(地方自治法第243条、同法施行令第158条)に基づく使用料等の収入の徴収

## 当該施設運営に係るソフト面の企画

### 第7 公有財産関係その他

P F I 事業により公有地上に公共施設等を整備する場合には、下記の事項について留意すること。

- (1) 当該施設の所有権が当該施設の整備後直ちに地方公共団体に移転し、供用される場合には、当該施設の用地は行政財産として位置づけられるものであること。
- (2) 当該施設の所有権が一定期間経過後に地方公共団体に移転する場合であって、当該期間中、P F I 事業者に対して普通財産として用地を貸し付けるときは、最終的に当該施設の所有権が当該地方公共団体に移転し、その行政財産になる時点において、当該施設の用地も、普通財産から行政財産に切り替える必要があること。
- (3) 地方公共団体の行政財産については、原則として私権を設定することができないこととされているが、P F I 法の一部改正により、次の特例が設けられたこと。

地方公共団体は、必要があると認めるときは、地方自治法第238条の4第1項の規定にかかわらず、P F I 事業の用に供するため、行政財産をP F I 事業者に貸し付けることができること。

のほか、地方公共団体は、P F I 事業者が一棟の建物の一部が当該P F I 事業に係る公共施設等である当該建物の全部又は一部を所有しようとする場合において、必要があると認めるときは、地方自治法第238条の4第1項の規定にかかわらず、行政財産である土地を、その用途又は目的を妨げない限度において、当該P F I 事業者に貸し付けることができること。

及び のほか、地方公共団体は、 により行政財産である土地の貸付けを受けた者が建物の一部をP F I 事業の終了後においても引き続き所有しようとする場合において、必要があると認めるときは、地方自治法第238条の4第1項の規定にかかわらず、当該行政財産である土地を、その用途又は目的を妨げない限度において、その者に貸し付けることができること。

から までの貸付けについては、民法第604条並びに借地借家法第3条及び第4条の規定は、適用されないこと。

から までの貸付けについては、地方自治法第238条の2第2項及び第238条の5第3項から第5項までの規定が準用されること。

最高裁第二小法廷判決（昭和62年3月20日）（別紙）

「その性質又は目的が競争入札に適しないものをするとき」とは、原判決の判示するとおり、不動産の買入れ又は借入れに関する契約のように当該契約の目的物の性質から契約の相手方がおのずから特定の者に限定されてしまう場合や契約の締結を秘密にすることが当該契約の目的を達成する上で必要とされる場合など当該契約の性質又は目的に照らして競争入札の方法による契約の締結が不可能又は著しく困難というべき場合がこれに該当することは疑いが無いが、必ずしもこのような場合に限定されるものではなく、競争入札の方法によること自体が不可能又は著しく困難とはいえないが、不特定多数の者の参加を求め競争原理に基づいて契約の相手方を決定することが必ずしも適当ではなく、当該契約自体では多少とも価格の有利性を犠牲にする結果になるとしても、普通地方公共団体において当該契約の目的、内容に照らしそれに相応する資力、信用、技術、経験等を有する相手方を選定しその者との間で契約の締結をするという方法をとるのが当該契約の性質に

照らし又はその目的を究極的に達成する上でより妥当であり、ひいては当該普通地方公共団体の利益の増進につながると合理的に判断される場合も同項1号（注：昭和49年改正前の地方自治法施行令第167条の2第1項第1号。現同項第2号）に掲げる場合に該当するものと解すべきである。そして、右のような場合に該当するか否かは、契約の公正及び価格の有利性を図ることを目的として普通地方公共団体の契約締結の方法に制限を加えている前記法及び令の趣旨を勘案し、個々具体的な契約ごとに、当該契約の種類、内容、性質、目的等諸般の事情を考慮して当該普通地方公共団体の契約担当者の合理的な裁量判断により決定されるべきものと解するのが相当である。

民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律(平成11年法律第117号)に基づいて  
地方公共団体が実施する事業に係る地方財政措置について

自治調第25号

平成12年3月29日

各都道府県知事 殿  
各指定都市市長

自治省財政局長

民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律  
(平成11年法律第117号)に基づいて地方公共団体が実施する  
事業に係る地方財政措置について

民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律(平成11年法律第117号)(以下「PFI法」という。)は、平成11年9月24日に施行され、PFI法第4条に基づく基本方針が平成12年3月13日に公布されたところである。

地方公共団体がPFI法第5条第1項の実施方針を定め、PFI法に基づいて実施する事業(以下「PFI事業」という。)については、「地方公共団体におけるPFI事業について」(平成12年3月29日付け自治事務次官通知)によりその基本的な考え方が示されたところであるが、地方財政措置の具体的な内容については下記のとおりであるので留意願います。

なお、貴都道府県内市町村に対してもこの旨周知願います。

記

第1 PFI事業に係る財政措置について

地方公共団体がPFI法第5条第1項の実施方針を定めて実施するPFI事業のうち1の要件を満たすものに係る施設整備費について、地方公共団体がPFI法第2条第5項に定める選定事業者(以下「PFI事業者」という。)に対して財政的支出を行う場合、2の財政措置を講じることとする。

1 要件

当該施設の所有権が一定期間経過後に当該地方公共団体に移転(当該施設の整備後直ちに移転する場合を含む。)するもの又はPFI契約(地方公共団体とPFI事業者の間で締結されるPFI事業に係る契約をいう。)が当該施設の耐用年数と同程度の期間継続するものであること。

通常当該施設を地方公共団体が整備する場合(以下「直営事業の場合」という。)に国庫補助負担制度がある事業については、PFI事業で整備する場合にも同等の措置が講じられること。

2 財政措置の内容

(1) 国庫補助負担金が支出されるPFI事業

ア 基本的な考え方

当該国庫補助負担金の内容に応じて、直営事業の場合と同等の地方債措置又は地方交付税措置を講じる。

## イ 具体的な内容

地方公共団体が P F I 事業者に対し施設整備時に整備費相当分の全部又は一部を支出する場合

地方公共団体が支出を行うに当たって、直営事業の場合と同種の地方債をその財源とすることができることとし、直営事業の場合に当該地方債の元利償還金に対して交付税措置を講じている場合には、同様の交付税措置を行う。

地方公共団体が P F I 事業者に対し後年度に整備費相当分の全部又は一部を割賦払い、委託料等の形で分割して支出する場合

地方公共団体が負担する整備費相当分(金利相当額を含む。)について、直営事業の場合の地方債の充当率、交付税措置率を勘案して財政措置の内容が同等になるように、均等に分割して一定期間交付税措置を行う。

## (2) 地方単独事業として実施される P F I 事業

### ア 基本的な考え方

直営事業の場合に施設の種別に応じた財政措置の仕組みがある施設については当該措置内容に準じて、そのような財政措置の仕組みがない施設(公共性が高く、かつ非収益的な施設で一定の要件を満たすものに限る。)については一定の範囲で地方交付税措置を講じる。

なお、ふるさとづくり事業に対する地域総合整備事業債の充当等、一定の政策目的に基づき地方公共団体の自主的、主体的な判断の下に行われる各種事業に対し講じられている財政措置は、「施設の種別に応じた財政措置」には当たらないことに留意すること。

## イ 具体的な内容

施設の種別に応じた財政措置の仕組みがある施設(複合的な機能を有する施設については、当該部分を分別できる場合における当該部分)の場合

地方公共団体が P F I 事業者に対し、施設整備時に整備費相当分を支出するか又は後年度に整備費相当分を割賦払い、委託料等の形で分割して支出するかを問わず、何らかの形で整備費相当分の全部又は一部を負担する場合、当該負担額の合計額(金利相当額を含む。)に対し、直営事業の地方債の充当率、交付税措置率を勘案して財政措置の内容が同等になるように、均等に分割して一定期間交付税措置を行う。

施設の種別に応じた財政措置の仕組みがない施設の場合

下記の要件を満たす施設について、地方公共団体が P F I 事業者に対し、施設整備時に整備費相当分を支出するか又は後年度に整備費相当分を割賦払い、委託料等の形で分割して支出するかを問わず、何らかの形で整備費相当分の全部又は一部を負担する場合、当該負担額の合計額(用地取得費を含まず、金利相当額を含む。)の 20% に対し均等に分割して一定期間交付税措置を行う。

(施設の要件)

通常地方公共団体が整備を行っている公共性の高い施設であり、かつ非収益的な施設(無料又は低廉な料金で住民の用に供され、施設整備費の全部又は一部を料金ではなく地方公共団体の財源で負担することが通例である施設)であること。

なお、庁舎等公用施設は対象としない。

## (3) 資金手当のための地方債

(1)及び(2)の財政措置に加えて、1の要件を満たす P F I 事業について、地方公共団体が P F I 事業者に対

し施設整備時に整備費相当分の全部又は一部を負担する場合には、必要に応じて資金手当のための地方債措置を講じる。

(4) P F I 事業者に貸与するための土地取得に要する経費

P F I 法第 1 2 条第 2 項の規定の趣旨に鑑み、地方公共団体が実施方針を定め、P F I 法に基づいて実施する P F I 事業の選定事業者に貸し付ける目的で用地を取得する場合には、必要に応じて資金手当のための地方債措置を講じる。

(5) 地方公営企業における P F I 事業

地方公営企業において施設整備に P F I 事業を導入する場合には、通常の地方公営企業に対する財政措置と同等の措置を講じる。

## 第 2 留意事項

上記の財政措置は、P F I 法に基づいて地方公共団体が実施方針を定めて実施する P F I 事業に係る措置であり、P F I 法に基づかないで行われる事業については適用されないこと。

上記の財政措置は、施設整備費相当分について地方公共団体が財政的支出を行う場合の措置であり、地方公共団体の選定事業者に対する支出が施設整備費のみならず運営費、維持管理費等も含んでいる場合には、適切な方法により施設整備費相当部分を分別して財政措置を行うものであること。

上記の財政措置が適用される P F I 事業を実施しようとする地方公共団体は、事前に自治大臣官房企画室に相談すること。なお、本通知文の内容についての問い合わせは自治省財政局調整室に行うこと。

## P F I 事業に係る民間事業者の選定及び協定締結手続きについて

平成15年3月20日

民間資金等の活用による公共施設等の整備等の  
促進に関する関係省庁連絡会議幹事会申合せ

P F I 事業を実施する際の民間事業者の選定及び協定の締結に係る事項については、平成13年1月22日にP F I 推進委員会においてとりまとめられた「P F I 事業実施プロセスに関するガイドライン」において、民間事業者の選定及び協定締結等に係る実務上の指針が示されているが、これまでに実施されたP F I 事業における課題等を踏まえ、さらなるP F I 事業の普及・促進に資するため、民間事業者の選定及び協定締結手続きに関する留意事項について関係府省において検討が行われた結果、別紙のとおりとりまとめが行われた。

関係府省においては、今後P F I 事業を実施する際には、別紙に示す事項について、個別の事業ごとにその取扱いに留意し、P F I 事業を円滑に実施することに努めることとする。

## P F I 事業に係る民間事業者の選定及び協定締結手続きについて

### (1) 民間事業者の選定方法について

P F I 事業は、公共施設等の建設、維持管理及び運営（これらに関する企画を含む）について、具体的な仕様の特定を必要最小限にとどめて発注を行うことにより、民間の資金、経営能力及び技術的能力を積極的に活用することを目的とするものである。したがって、P F I 事業においては、民間事業者は応募に際して価格と事業提案をあわせて発注者に提出することとなるが、事業内容が複雑で多岐にわたる事業において、多くの事業者に並行して詳細にわたる事業提案を作成させる選定手続きをとった場合には、最終的に落札する可能性が低い中で詳細な提案を作成することが民間事業者にとって過大な負担となることも考えられる。

P F I 事業を円滑に実施するためには、民間事業者の創意工夫を最大限活用することが重要であり、民間事業者の負担に関して発注者として適切に考慮するとの観点から、事業内容によっては、競争性を損なわないとの前提の下で、詳細な事業提案を提出する事業者を一定の段階であらかじめ絞り込むことが考えられる。

「P F I 事業実施プロセスに関するガイドライン」においては、会計法令の適用を受ける契約に関しては、一般競争参加者の資格要件及び審査基準を適切に設定すること、当該事業を適切に実施できる能力を有する民間事業者のみがより詳細な事業計画等を作成の上一般競争入札に参加できるようにするこ

とが適当であるとされている。

この考え方に基づき、競争入札の資格（国の行う契約については、予算決算及び会計令第七十二条及び第七十三条に規定される資格）の審査に際して、各民間事業者に、事業についての基本的な考え方や、施設の設計・建設、維持管理・運営についての考え方、資金調達及びリスク分担についての考え方等をその内容として含む事業計画の概要を提案させ、各提案があらかじめ定める審査基準を満たしているか否か審査することによって、事業者の絞込みを行うことが可能である。

## (2) 入札前の事業の実施方針、契約書案等の変更等について

P F I 事業においては、事業の実施方針の公表後の市場調査や、民間事業者等からの発案や意見を踏まえ、必要に応じて特定事業の選定までに当該実施方針の内容（事業内容、リスク分担のあり方等）を見直し、事業実施のスケジュールに配慮しつつ、実施方針の変更を適宜に行うことによって、事業の円滑な実施が図られるものと考えられる。

また、事業の実施方針が公表された後、入札が行われるまでの間、入札参加予定の民間事業者において、詳細な事業提案の作成等の入札準備が円滑に進められるよう、入札の際の判断材料となる事項について、発注者側との間で十分な意思疎通が図られるべきである。

特に、P F I 事業は、契約の履行期間が長期に及ぶものも多く、事業の特性に応じて、事業期間中に生じ得るさまざまな事に対応するために、個々の事業の特性に応じてリスク分担等を定めることが必要となる。その際、リスク分担については、「P F I 事業におけるリスク分担等に関するガイドライン」（平成13年1月22日とりまとめ）の内容を踏まえ、事業実施のための最適な分担を決めることとなる。

「P F I 事業実施プロセスに関するガイドライン」においては、民間事業者の募集に当たり、発注者の意図が応募者に的確に伝わるように、契約書案の添付又は入札説明書等において契約条件の基本的な考え方をできる限り具体的に示すことが必要であるとされており、また発注者と民間事業者との間で考え方の齟齬を来さないように、可能な限り複数回、質問・回答の機会を設けることが望ましいとされている。

発注者においては、質問・回答等の機会において提示される民間事業者の意見に耳を傾けつつ、円滑な事業実施のために必要と認められる場合には、契約書案、入札説明書等の内容についての適宜の修正や変更を行い、民間事業者に対して公表することとする。修正や変更の際には、民間事業者が検討を行うために必要な時間を確保することに留意する。

なお、会計法令の適用を受ける契約について、公告において提示された内容を変更した場合には、変更後に会計法令等において定める公告期間が必要となることに留意する必要がある。

### (3) 協定締結の手続きについて

P F I 事業においては、いわゆる性能発注の考え方を取ることが必要であるため、個々の事業者の事業提案内容が、あらかじめ発注者が契約書案を作成する段階で想定し得る範囲内のものであるとは限らず、例えば事業者の個別提案に応じて、関連するリスク分担の取決めやモニタリングの方法など、別途に決めることが必要な事項が生じることもあり、また、契約の内容に含めるべき個別事項について、入札前の契約書案の中で具体的に・確定的に定めることが現実的に困難であるケースも想定される。

したがって、実際に P F I 事業を実施するに当たり、入札前に明示的に確定することができなかった事項については、必要に応じて、落札者が決定された後の協定を締結する段階において、発注者と事業者との間で明確化を図ることは、P F I 事業の円滑な実施に資するものと考えられ、入札前に公表された契約書案、入札説明書等の内容について、協定締結時に変更が一切許容されないものではない。

ただし、他の競争参加者が当該落札者よりもより有利な条件や価格を提示することが明らかに可能となる条件変更を行うことは、競争性確保の観点からは許容されない。

## 用語集

<あ行>

アウトソーシング (Outsourcing)

公共部門がコスト削減を目的として、その業務の一部を民間に委託することをいう。ただし、PFIの概念が導入されるまでは、ライフサイクルを通じた厳密なコスト比較は行われていない。

アベイラビリティフィー (Availability Fee)

民間事業者が一定水準の公共サービスを提供している限り公共から固定的に支払われる対価。施設や設備が一定の水準で整備されており、主要なサービスが提供されていれば支払われるものとされる。

IRR (Internal Rate of Return : 内部収益率)

事業の採算性を評価するためによく利用される指標。投資が生み出すキャッシュフローの現在価値が投資額、すなわちキャッシュアウトフローの現在価値に等しくなる (NPV = 0 となる) 割引率を指す。事業者から見れば投資に対する利回りで、当然資金調達コストを上回る必要があるが、そのレベルは事業に内在するリスクによって異なる。

投資額 =  $\{N \text{年後のキャッシュフロー} / (1 + \text{割引率 } R)^n\}$

イコールフットィング (Equal Footing)

公共サービスの提供を公共が行うか民間事業者のPFIに任せるかの選択に際して、VFM評価を行う場合に公共セクターのコスト面での優位性を除去して比較すること。従来型の公共事業は、地方自治体等が国から供与を受けている補助金、地方交付税の他、自治体の起債による低利資金調達、非課税措置等により、民間事業者がPFI事業を実施する場合と比較して、コスト面で優位性がある。

一般競争入札

競争入札のうち、競争に加わる者を限定しないものであり、競争に加わった者のうち地方自治体に最も有利な条件を提示する者と契約を締結する方法。地方自治体の締結する契約は、一般競争入札・指名競争入札・随意契約・せり売りの四つの方法とされているが、原則は一般競争入札とされている。PFI事業者の選定も一般競争入札が原則とされているが、一般競争入札においては入札書の書換え等が禁止されているため、入札後の交渉が極めて困難になる。このため、一般競争入札によりPFI事業者を選定する場合は、入札公告時に公共から詳細な契約条件を契約書案のような形で掲示する必要がある。

Equity IRR

資本金と元金返済後の当期損益の現在価値の合計とが等しくなるような割引率。スポンサーIRRともいう。スポンサーにとっての採算性を計るための指標である。

#### S P C (Special Purpose Company)

特別目的会社。プロジェクトファイナンスにおいては、特定のプロジェクトから生み出されるキャッシュフローを親会社の信用とは切り離すことがポイントであるが、その独立性を法人格的に担保すべく、単一事業会社として設立されるケースが多い。P F Iにおいては、P F I事業を目的とするS P Cが民間事業者により設立されることが多い。

#### N P V (Net Present Value)

プロジェクトから生み出されるネット・キャッシュ・フロー（元利返済前）の割引現在価値から投下資本の現在価値を差し引いたもの。割引率はL I B O Rなどのベース・レートにプロジェクトのリスクを大きさに応じて決められるリスク・プレミアムを上乗せしたものを多用することが多いが、簡便法として借入金利や平均資本コストを用いることもある。N P Vがプラスであると、プロジェクトから生み出されるキャッシュ・フローの価値が実際に投下する資本の価値を上回るということであり、基本的には投資する価値のあるプロジェクトであるという判断となる。当然のことながら、N P Vの値は大きければ大きい程収益力も高いということになる。逆に、N P Vがマイナスであれば、プロジェクトから得られるものが投資金額に見合わないということになり、その様なプロジェクトの成立は極めて困難と言える。

#### L L C R (Loan Life Coverage Ratio)

借入期間にわたる元利返済前キャッシュフローの現在価値が借入元本の何倍に相当するかを示す指標。事業会社の返済能力を分析する指標として、D S C Rとともに用いられる。

$L L C R = (\text{元利返済前キャッシュフローの現在価値}) / \text{借入元本}$

#### L C C

ライフサイクルコストの項参照

#### L T V (Loan To Value)

対象資産の価値（実勢価値：不動産であれば一般に収益還元価格）に対する発行社債の元本金額の合計。したがって、L T Vが小さいほど社債の安全性は高いといえる。

< か行 >

#### 関心表明書 ( L O I )

金融機関等が対外的に発出する、当該事業への関心、融資検討の実施について表明するレター。参加関心表明書、L O I (Letter of Intent) とも呼ばれる。あくまで関心、融資検討の実施についての表明であり、融資の確約を行っているわけではない点、留意が必要である。P F Iでは、事業者選定プロセスにおいて、資金調達の確実性を確認する目的で、審査基準に関心表明書の取得が盛り込まれるケースがある。

## キャッシュフロー

事業活動による資金の流入。PFI事業においては、プロジェクトファイナンスが導入される場合が多く、融資者に対する主な返済原資となるキャッシュフローの管理が最重要課題となる。

## 現在価値 (PV / Present Value)

複数年にわたる事業の経済的価値を図るために、各年のキャッシュフローに時間の概念を取り入れた考え方。例えば、今日手に入る100万円は3年後に手に入る100万円よりも価値が高いと考えられる。なぜなら、今日手に入った100万円は、例えば3%複利の金融商品(預金、債務等)で運用すれば、3年後には約109万円になるからである。こうした考え方をもとに、現在を比較の基準とし、将来受け取るキャッシュフローが現時点ではどのくらいの価値があるのかを示したものが現在価値である。現在価値は次の式で表される。

$$PV = \sum_{t=1}^n \frac{CF_t}{(1+r)^t} \quad CF_t: t \text{ 年度のキャッシュフロー} \quad r: \text{利率}$$

VFMの計算等においては、PFIの事業期間が複数年にわたることを考慮し、現在価値を求めて検討することが必要である。

## 公募型プロポーザル方式

公募により提案書を募集し、予め示された評価基準に従って最優秀提案書を特定した後、その提案者の提出者との間で契約を締結する方式。形式としては随意契約に該当するため、採用にあたっては調達内容が随意契約の要件を満たしていることが必要となる。要件が満たされていれば、発注者たる公共と最優秀提案書の提出者との間で予定価格の範囲内で契約の交渉を行い、その価格以下で交渉がまとまれば契約が行われる。

## コーポレートファイナンス (Corporate Finance)

従来型企業貸付の主流で、企業の信用力による資金調達。プロジェクトファイナンスと対比される。

## コンストラクションマネジメント (CM / Construction Management)

建設技術者に求められる総合的な管理能力。施設の建設技術だけでなく、企画設計にはじまり、建設工期中のQCD S(品質・コスト・工期・安全)の管理および環境保護に対する十分な対応力等が必要とされ、これが事業の成否を握る重要な要素となる。

## コンセッション (Concession) 契約

事業権契約の項参照。

## コンソーシアム (Consortium)

共同体。PFI事業においては一般に、業務が設計、建設、修繕、清掃、警備等多岐にわたるため、複数の企業がコンソーシアムを形成し、事業を遂行することが多い。

< さ行 >

#### サービス購入型

P F Iにおける基本的な事業形態の一つ。民間事業者が公共の要求水準に合うサービスを提供し、公共がサービスの提供に対して対価を支払うタイプ。英国では、民間事業者が刑務所を設計、建設、運営し、それに対して公共が対価を支払う例、同じく民間事業者が道路を設計、建設、運営し、道路を利用するであろう自動車の想定台数に基づき「Shadow Toll」（影の通行料金）を公共から受け取る例等が挙げられる。日本においては神奈川県が実施した「神奈川県衛生研究所」、調布市が実施した「調布市立調和小学校」等の事業がこのタイプに該当する。

#### 事業権契約

公共が民間事業者に事業権を付与するための契約。事業期間中における公共、民間事業者それぞれの権利、義務について定めることとなる。コンセッション契約とも呼ばれる。P F I事業における事業権契約の主な内容としては、事業内容、事業権付与期間、民間事業者への支払いに関する規定、事業破綻時の対応、契約終了時の規定、介入権が挙げられる。

#### ジョイントベンチャー型

P F Iにおける基本的な事業形態の一つ。公共が出資するが経営には関与しない事業、補助金・政府融資・施設移転など公的支援を受けながら民間が運営する事業が挙げられる。この場合、公共の負担は民間収入では賄えない社会便益の部分を担当することになる。

#### 仕様発注

施設の構造、建設、施工方法、資材等について発注の段階において発注者から詳細な指示のある発注のこと。

#### 正味現在価値

N P Vの項参照

#### ショートリスト（Short List）

英国のP F I事業選定手続においてロングリスト作成後に、技術、資金調達、価格等を含め具体的かつ詳細に検討された結果作成される最終的な入札のリスト。ショートリストに掲載された各事業者から最終案の提示を受け、それをもとに優先交渉権が決定される。

#### 性能発注

発注者が求めるサービス水準を明らかにし、満たすべき水準の詳細を規定した発注のこと。施設の仕様について詳細に規定するのではなく、「 という条件を満たす施設」という規定の仕方になるので、民間事業者が構造や材料、維持管理の方法等について要求水準を満たす枠内で自由に提案することが可能である。民間事業者のノウハウを生かすためには性能発注が望ましいが、公共施設として求められる基準や規制、発注側で重要と

考える設計上の課題に係る箇所等については詳細な要求を行うことも必要であろう。

< た行 >

ダイレクトアグリーメント (Direct Agreement)

直接契約の項参照。

WTO 政府調達に関する協定

それまでのガット (GATT) に代わる世界貿易機関 (WTO) の設立にあたり95年1月1日に発効したのが「世界貿易機関を設立するマラケシュ協定」であり、WTO協定の付属書4に収録されているのが政府調達に関する協定である。政府調達に関する協定では、国のみならず都道府県、政令指定都市及び政府関係機関の行う基準額以上の調達契約も対象とされたため、協定に定められた手続きを担保するために、入札・契約の具体的な手続きを定める「地方公共団体の物品又は特定役務の調達手続の特例を定める政令」が制定された。PFI事業においても、契約の主目的である調達が協定の対象となる事業をPFI事業とした場合は、特例政令が適用されるため留意が必要である。

DSCR (Debt Service Coverage Ratio)

各年度毎の元金返済前キャッシュフローが、当該年度の元金支払所要額の何倍かを示す比率。元金支払の余裕度を見る指標として重要であり、財務制限条項として融資契約上、DSCRを一定比率以上維持する旨借入人に誓約させることも多い。プロジェクトの性格にもよるが、ダウンサイドケースで、最低1.2~1.3程度は必要となるケースが多い。

$DSCR = (\text{当該年元金支払前キャッシュフロー}) / (\text{当該年元金支払い所要額})$  として算出される。

独立採算型

PFIにおける基本的な事業形態の一つ。民間事業者が施設の設計、建設、運営を行い、最終利用者からの料金収入によってその費用を回収するタイプ。この場合、公共の関与は事業計画の策定や許認可などに限られる。イギリスにおける有料橋の例等が挙げられる。日本においては、北九州市が実施した「ひびきコンテナターミナル」、大阪府が実施した「江坂駅南立体駐車場」等の事業がこのタイプに該当する。

< は行 >

PSC (Public Sector Comparator)

VFMの評価を行う際に算出される、公共が当該事業を直接実施した場合における公共のコスト負担。公共における従来の技術、基準、運営手法に基づき、設計、建設、維持管理、運営を行った場合のコストを算出する。これに民間事業者に移転したリスクを定量化したものやその他定性的評価を加味して、PFIを実施した際の公共の負担と現在価値ベースで比較し、PFIを実施するか否かを判断することになる。

#### P F I (Private Finance Initiative)

民間の資金、経営能力及び技術能力を活用して公共施設等の建設、維持管理、運営等を行う手法のこと。民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用することにより、国や地方自治体等が直接実施するよりも効率的かつ効果的に公共サービスを提供する、つまり租税の対価として最も価値あるサービスを提供するというV F Mという概念が判断基準の一つであり、V F Mが実現されると認められる事業が対象となる。

#### P P P (Public Private Partnership)

英国の労働党政権は、保守党時代に始まったP F Iとの差別化を打ち出すため、P F Iと呼ばずにP P Pという呼称を使っている。本質的にはP F Iと同じであるが、事業主体に政府も出資するなど行政側の関与を強くしている。日本では、アウトソーシングや民営化も含めて公民パートナーシップというP F Iより広い概念でとらえられている。

#### B L T (Build Lease and Transfer)

事業方式の一つ。事業主体が自ら資金調達を行い、施設を建設後、公共にその施設をリースし、リース代を得て資金を回収するとともに、施設の使用権を得る方式。契約終了後に所有権を公共に引き渡す。

#### B O O (Build Operate and Own)

事業方式の一つ。民間事業者が施設を建設し、維持管理及び運営をするが、公共への所有権移転は行わない方式。

#### B O T (Build Operate and Transfer)

事業方式の一つ。民間事業者が施設を建設し、維持管理及び運営し、事業終了後に公共に施設所有権を移転する方式。

#### B T O (Build Transfer and Operate)

事業方式の一つ。民間事業者が施設を建設し、施設完成直後に公共に所有権を移転し、民間事業者が維持管理及び運営を行う方式。

#### P V (Present Value)

現在価値の項参照

#### V F M (Value for Money)

P F Iにおいては、租税の対価として最も価値あるサービスを提供するという考え方をいう。P F Iは一括発注によるライフサイクルコストの削減、民間事業者への適切なリスクの移転等によりV F Mを達成するところにメリットがある。P F Iを採用するか否かは、公共の財政負担がない独立採算型を除きV F Mの評価により行うが、具体的には公共が直接サービスを提供する場合に公共が負担するコスト(P S C)と、P F Iを実施した場合に公共が負担するコストを現在価値ベースで比較し、移転したリスクを定量化した

ものやその他定性的評価を加味し、PFIを実施した場合の方が有利であると見込まれる場合にPFIが採用されることとなる。逆にPFIを実施した場合の方が不利であると判断された場合は、PFI以外の手法を採用することになる。

#### Project IRR

設備投資額と、償却前利払前当期損益の現在価値の合計とが等しくなるような割引率。投資採算を計る上で指標の一つであり、Project IRRが資本コストを上回るよう採算性があると考えられることができる。

#### プロジェクトファイナンス (Project Finance)

あるプロジェクトの資金調達において、返済原資をその事業から生み出されるキャッシュフローのみに依存するファイナンスのこと。また、担保は当該事業に関連する資産（含む契約上の権利）に限定し、プロジェクトを行う親会社の保証、担保提供等は原則としてない。プロジェクトファイナンスの機能の一つは、従来、事業主が全面的に負っていた事業に関する様々なリスクを、金融機関を含めた複数の関係者のうち最も適切にリスクコントロールできる者が分担することでリスクの分散が可能になるところにある。PFIにおいては、基本的に当該PFI事業のみを行うSPCが設立されること、収入は当該PFI事業により生み出されるキャッシュフローに限られること、公共と民間事業者とのリスク分担が決められており、一方が包括的に事業リスクを負うものではないことからプロジェクトファイナンスによる資金調達になじみやすいものとなっており、実際にプロジェクトファイナンスによる資金調達が多くの事業で行われている。

<ま行>

#### モニタリング

PFI事業において、事業開始後における民間事業者のサービス提供の水準が公共の要求水準を満たしているか否かについて公共がチェックを行うこと。モニタリングの結果、要求水準を満たしていないということになれば、サービス対価の減額等が行われることとなる。

<や行>

#### ユニバーサルテスト

1994年に11月に英国大蔵省が導入した施策。英国においては1992年にPFIが導入されたが、初期においては案件の成立が進まなかったため、英国大蔵省はほぼ全ての公共事業についてPFI方式の検討を強制、検討がなされていない事業に対しては一切公共事業として認可しないこととした。これによりPFIが動き出すことになった。1997年労働党に政権が交代すると、経験の蓄積によりPFI事業として行うべき公共事業の目安ができたとして廃止されている。

<ら行>

#### ライフサイクルコスト

プロジェクトの誕生から終了まで、つまり、計画、施設の設計、建設に始まり維持管理、運営、事業終了までのトータルにわたり必要なコストのこと。略してLCC。施設の設計から維持管理、運営までを一括して民間事業者が発注することによりライフサイクルコストの低減が可能になることは、PFIを実施するメリットの一つである。リスクある事柄に関し不確実にしか予見できない場合において、その事柄が原因となり、追加費用が発生する、損失を被る、期待した収益をあげられないといった好ましくない事態が生じる可能性のこと。

#### リスク移転

ある事業を公共が直接行う場合は、その事業に係るリスクをすべて公共で負担することになる。これに対して、PFIにおいては公共と民間事業者との間でリスク分担を行うことで、一定のリスクを事業者側に負わせることが可能となる。これがリスクの移転である。移転されたリスクを定量化することによりVFMは上昇するが、適切なリスク移転を超えた場合においては、むしろVFMは低減していくこととなる。民間事業者側が過大なリスクを負ったことによりリスクプレミアムが必要以上に高くなってしまふからである。リスク移転における基本は「各々のリスクを最も適切にコントロールできるものがリスクを負担する」ということであり、「可能な限り多くのリスクを民間事業者側に移転する」ということではないことに注意すべきである。

#### リスクの定量化

移転されたリスクを金銭的価値に換算すること。VFMの評価においては、実際のコスト負担に定量化されたリスクが加味されることになる。英国では工事費の増高等に関する過去のデータの蓄積から、事業に伴うリスクの確率、影響等を定量化した上で、統計的な手法等を用いて各リスクの金銭的価値を試算している。しかしながら、日本においてはリスクに関するデータの蓄積がないため、リスクの定量化は今後の課題である。

#### リスク分担

事業において想定され得るリスクを、公共と民間事業者とで分担すること。リスク分担については、実施方針等においてリスク分担表の形式に示されることが多い。リスク分担における原則は「各々のリスクを最も適切にコントロールできるものがリスクを負担する」ということであり、「可能な限り多くのリスクを民間事業者側に負担させる」ということではないことに注意すべきである。

#### 劣後ローン

倒産などの際、貸付債権の債権者に対する元利金の支払いを他の一定の債権者（上位債権者）に対する債務の履行よりも後順位に置くむねの劣後特約を付して行われる無担保の貸付債権。

#### ロングリスト

英国のPFI事業者選定手続において、公共からの公示に対して応募してきた事業者側に能力、経験、資金力等に関する一般的な基準をもとに事前審査を行った結果作成される入札参加者リスト。ロングリスト作成の後、専門的かつ具体的な観点からさらに事業者の絞り込みが行われ、最終的な事業者の選定が行われることになる。

絞込みを行うことで公共にとって時間と費用の節約になるほか、各応募者にとっても最終案の作成には相応のコストが必要になるため、落選業者が過度のコスト負担を強いられることがなくなる。日本の場合、地方自治法施行令に定められた一般競争入札の参加資格要件によれば英国型の２段階選抜は困難であると考えられるが、「PFI事業実施プロセスに関するガイドライン」においては、資金調達能力、長期のリスク管理能力やマネジメント能力等を含めた適切な資格要件の設定や必要最小限の内容に関する事前の事業計画審査の必要性についてふれられており、２段階選抜への道が開かれているといえよう。但し、その場合もWTO政府調達に関する協定との整合性には留意が必要である。

(出典)大阪狭山市版PFI導入ガイドライン(平成15年3月)の用語集を参照に作成

## 参考・引用文献

- ・ PFI 公共投資の新技术 井熊均 日刊工業新聞社 1998.5
- ・ 日本版 PFI のガイドライン 日本版 PFI 研究会 大成出版社 1999.2
- ・ 自治体のための PFI 実務 井熊均 (株)ぎょうせい 1999.10
- ・ 完全網羅「日本版 PFI」 西野文雄 監修 (株)山海堂 2001.4
- ・ 自治体 PFI ハンドブック 地域総合整備財団 PFI 調査チーム (株)ぎょうせい 2002.3
- ・ 第3セクターと PFI 宮本康夫 ぎょうせい 2000.2
- ・ PFI の知識 野田由美子 日本経済新聞社 2003.1
- ・ 検証・日本版 PFI 建設政策研究所編 自治体研究社 2002.12
- ・ PFI で施設ができた 完成実例研究 日本 PFI 協会 2003.4
- ・ PFI 実施案件の実態調査報告書 (社)日本プロジェクト産業協議会 2003.9
- ・ PFI 年鑑 2004 年版 日本 PFI 協会 2004.1
  
- ・ あなたのまちに PFI を 彩の国さいたま人づくり広域連合自治人材開発センター 2001.3
- ・ 横浜市 PFI 等基本方針・ガイドライン 2003.3
- ・ 大阪狭山市版 PFI 導入ガイドライン 2003.3
- ・ 鈴鹿市 PFI 導入基本指針

## 参考としたホームページアドレス

- ・ 内閣府 民間資金等活用事業推進室(PFI 推進室) <http://www8.cao.go.jp/pfi/>
- ・ 自治体 PFI 推進センター <http://www.pficenter.jp/>
- ・ PFI インフォメーション <http://www.pfinet.jp/>
- ・ 日本 PFI 協会 <http://www.pfikyokai.or.jp/>
- ・ 国土交通政策の HP <http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/policy/kensei.htm#K5>

泉南市 P F I 研究会 活動記録

日程	会議名	活動内容
平成 14 年 10 月 25 日	第 1 回研究会	委嘱状交付、研究会概要説明
12 月 5 日	第 2 回研究会 ( 講義 )	講義「PFI の基礎」( 講師：三菱総合研究所 櫻沢氏 ) 及び 質疑応答、討議
平成 15 年 1 月 24 日	第 3 回研究会	スケジュール及び先進事例調査研修の内容について討議
2 月 7 日	先進事例調査研修	羽島市「温水プール」、桑名市「図書館等複合施設」を調査
2 月 19 日	第 4 回研究会	・事例調査の報告、 ・各研究員による PFI 関連図書の概略説明及び質疑応答
3 月 27 日	第 5 回研究会	PFI 実施案件の可能性調査報告書を用いた VFM 研究
4 月 25 日	第 6 回研究会	・NPM の概要・バランスシート・行政評価に関する講義、 ・VFM 及びキャッシュフローの試算方法について研究
5 月 29 日	第 7 回研究会	研究報告書の骨格について討議
6 月 3 日 4 日	( 財 ) 地域総合整備 財団主催「PFI 研修 会」	「最近の国の施策動向」( 総務省職員 ) 「実務と法的論点」( アンダーソン・毛利弁護士事務所 ) 「PFI と融資」( 日本政策投資銀行 ) 「事例研究」( 神奈川県 ) 等について受講
7 月 3 日	第 8 回研究会	研究報告書の内容について討議
8 月 25 日	第 9 回研究会	研究報告書の内容について討議
9 月 5 日	PFI 研修会 ( PFI ア ドバイザー派遣事 業 ) ・第 10 回研究会	( 財 ) 地域総合整備財団「PFI アドバイザー派遣事業」として 「PFI の現状及び VFM 簡易シミュレーション」に関する講義受講 ( 講 師：日本経済研究所 高橋氏 ) 及び質疑応答
10 月 20 日	第 11 回研究会	研究報告書の内容及び先進事例調査研修について討議
11 月 20 日 21 日	先進事例調査研修	越谷市「広域斎場」、市川市「第七中学校」「クリンセンター」、杉 並区「新型ケアハウス」を調査
11 月 28 日	第 1 回 報告書編集会議	研究報告書「第 1 章基礎編」下書きの内容検証
平成 16 年 2 月 3 日	第 2 回 報告書編集会議	研究報告書「第 2 章導入編」「第 3 章シミュレーション」 下書きの内容検証

おわりに

地方分権一括法の施行に伴い、三位一体の改革が進展し、本格的な分権型社会が到来しようとする中、地方自治体は組織的にも意識的にも大きな変革を迫られている。

言い換えれば、これまでのように、「効率性の追求」や「無駄の排除」といった概念を持たず、「地域」という市場において独占的に事業を実施する企業（自治体）が、果たして生き残ることができるのだろうかということを真剣に考える時代が到来したのである。

自治体に課せられた使命は、良好な行政サービスを提供し、住民の福祉の増進に努めるとともに、最少の経費で最大の効果を上げるような行政運営に努めることである。また、その使命を果たすため、どのような手法を選択すれば効率的かつ効果的に行政サービスを提供できるのかを考えることが、私たち自治体職員が果たすべき任務である。しかしながら、私たちはその任務を本当に全うできていたのだろうか？

これまでは、行政そのものにコスト意識が希薄であったことに加え、従来の行政システムは事業の業績（成果）を測定する経験が乏しく、事業実施後にそれを評価するという概念そのものが希薄であった。そのため、その経験を次の計画・企画に活かしていくという意識が根付いていないというのが現状である。

P F Iでは、従来自治体が執行していたサービスを民間事業者が提供し、自治体はそのサービスを「購入」して、その水準を評価・監視する立場となる。このように、自治体が「サービス購入者」の視点で行政サービスを評価する立場に立つことで、これまで行政に希薄であったコスト意識が芽生える契機ともなるのではないだろうか。

本研究会においてP F Iに関する調査・研究を進めていく中で、P F Iを単なるコスト縮減のツールとして捕えるのではなく、自治体が行政運営を進めていく上で「新たな視点と概念を与える」ツールとして捉えるべきではないか、またP F Iの理念を行政運営の中でどのように活かしていくべきかを考えていくことが重要なのではないかという結論に至った。

P F Iは、逼迫する財政状況を救うための魔法の杖にはならないが、旧態依然とした行政文化をかえる魔法の杖にはなり得るのかもしれない。